

Aさんの心に響いているのではないかと思います。

時には歌詞を語りかけることもあります。その語りかけはよく聴いているのですが、メロディーがある方がその歌が持っている楽しい気持ちや悲しい気持ちといった感情を感じとりやすく、更によく聴く様子が見られました。

あおばの 日常生活紹介 仲山 利恵

Aさん(横地分類A1)は、リズムの変化や音の変化を感じ聞こうとする様子があります。一定のリズムから変調があり最後にアクセントになる音が入る活動を行っています。傾斜のついた板の上をタタン・タタンと強弱のある規則的なリズムを刻みながら、ゆっくり進んでいく木の人形の音をジッと耳を澄ませて聞き入ります。坂の終わりに缶の蓋を置いておき、最後に木の音ではない缶の音が聞こえると、顔を音のする方に向けて力が入ります。それまで聞いていた木の音ではない音がしたことに気付き、ハッとしたり表情がみられます。動きが止まって音がしなくなっても、

しばらく音のする方向に意識を向け続け、再びリズムのよい木の音が聞こえることを待っているような様子が見られます。もう一度坂の上からタタン・タタンと規則的な繰り返される木の音が聞こえてくると、ふっと表情が和らぎ、期待して待った音が聞こえて満足した様子うかがえます。タタン・タタンという木の規則的な繰り返される音のリズムを楽しみ、さらに、最後木の音から缶の音に変わるところも面白いと感じているようです。



Bさん(横地分類C1)に、昔話「あかちゃんになったおばあさん」の本を読んだ時、真剣に聞いていました。ストーリーの展開が面白かったり、思いがけない結末がある

お話を聞いて楽しむ活動を行っています。「ちびくろさんぼ」の絵本を語りかけていくと、主人公が散歩の途中でトラに出会い、「食べちゃうぞー」と襲われそうになるシーンになると、びっくりした表情になります。トラが出てくる度にハラハラした様子になって「イヤイヤ」「ダメ」と必死になって声を出します。ストーリーの最後に、主人公が食べられないことがわかると、うんうんと頷きホッとしたりした表情をしていました。悪者のトラが出てくる場面の度にハラハラしたり、主人公が無事でホッとするなど、絵本のストーリーの展開を楽しみました。満足感が得られていると感じました。



はるかの 日常生活紹介 田口 結実

Aさん(横地分類A3)は、周囲で活動が始まると体の向きを変えて活動している様子をよく見えています。活動をしている職員動きや声、楽器などの音に気持ちを向けているようです。語りかけや楽器のリズム打ちが聞こえてくると、それをじっと聞いていたり、擬音語やリズムが変わったところで笑ったりする様子があります。木のボールを「コン・コン・コン」とゆつくりしたテンポで打ち鳴らし、音が徐々に小さくなっていったり、大きくなっていったりする様子をじっと聞いています。また「コンコンコン・コンコンコン」と同じリズムが続いた後に、「コンコココンコン・コンコン」と違うリズムが聞こえると、そこに面白さを感じて笑い、始めから繰り返すと集中して聞いている様子があります。活動では木のボールやカステネットを使ったリズム活動をしました。木のボールは打ち鳴らすと、木の柔らかい、優しい音がします。木のボールを持ってAさんのそばに行くと、楽器や

職員の顔を見て始まるのを待っているようです。職員が木のボールを打ち鳴らす様子をよく見えています。Aさんと顔を合わせ話しかけると笑っていました。木のボールを「コン・コン・コン」と打ち鳴らすと、職員の顔や木のボールを見始めました。そして、ゆっくりAさんの方に鳴らしている木のボールを近づけていくとじっと動きを止めて聞いていました。木のボールを打ち鳴らしながら遠ざけていくと木のボールをよく見ていて、鳴らしている動きにも注目しているようでした。また自分のところから徐々に離れて小さくなっていく音にも耳を傾けているようでした。

